



第112号

石川県生活協同組合連合会
 〒920-0362 金沢市古府2-189
 コーポししかわ古府センター2F
 TEL076-259-5962 FAX076-259-5963
 http://ishikenren.jp

発行日/2024年11月25日
 発行責任者/大谷 学

2024年度生協連 第1回 役職員研修会

日時 2024年9月11日(水)

会場 石川県地場産業振興センター新館 第12研修室

「農政の憲法」と言われる「食料・農業・農村基本法」が制定から四半世紀を経て2024年5月29日に改正されました。

北陸農政局消費安全部長 添野 覚氏を講師にお迎えし、改正までの経過と改正ポイントについて学習しました。



講師の添野 覚氏

改正までの25年間で明らかになった課題から、6つの改正ポイントとして
 ①国民一人一人の「食料安全保障」を基本理念に ②「環境と調和のとれた食料システム」を新たな基本理念に ③人口減少下における農業生産の方向性を明確化 ④人口減少における農村コミュニ

ニティの維持を明確化 ⑤「食料システム」の位置付けと関係者の役割を明確化 ⑥改正基本法に基づく次期基本計画の制定について説明いただきました。

講演後「令和のコメ騒動」の対応についてや農福連携、スマート農業等について質問・意見が出され、研修会の内容が深まりました。



研修会の様子



研修会の様子

参加者アンケートの感想・意見

農村、農業の持続的維持発展には、如何に課題が山積しているかを痛感した。法改正にもとづく今後の農業政策に期待するとともに注視していきたい。

(参加者)

「基本法」の経緯、理念、背景について学ぶことができて大変良かった。25年間で課題となったこと、そして今の国内外の情勢を考えた時に、基本法に盛り込まれた政策は多岐にわたっており、一番大切な「食糧の安定的な確保」「自給率の向上」「生産者の持続性の確保」が確実に担保されているかは疑問が残る。

(参加者)

2024年

生協の平和の取り組み



生活協同組合コープいしかわ

コープいしかわでは8月5日(月)～6日(火)、5年ぶりに「平和の旅 ヒロシマ」を開催しました。



原爆ドーム前での集合写真

行程内容は、日本生協連企画の「虹のひろば」で、被爆の証言として八幡照子氏のお話をお聞きし、被爆の実相を知ることが出来ました。(八幡照子：当時8歳で爆心地から2.5km離れたところで実際に被爆)また、参加者で平和記念公園内の「原爆の子の像」に組合員より寄せられた折り鶴を献鶴し、平和への祈りを捧げました。その他、ボランティア

ガイドによる碑めぐり、平和記念資料館の見学、平和祈念式典参列、原爆詩朗読会参加など被爆時のヒロシマの様子を学びました。

参加者からは「戦争で人々がどんな思いをしたのか、自分も今回の旅を体験している人々に伝えたいです」などの感想が寄せられました、これからも平和の大切さを次世代に継承していく取り組みをすすめていきます。

(コープいしかわ 西口 晴美)

反核・平和おりづる市民のつどい 実行委員会 ピースデイ2024



ピースデイで挨拶する馳知事

7月21日(日)、金沢市卯辰山玉兎ヶ丘「平和の子ら」像前でピースデイ2024を開催しました。



でえげっさあの平和ミニコンサート



原爆詩の朗読

本年度も石川県知事馳浩氏から力強いご挨拶をいただいた後、平和サークル「むぎわらぼうし」の皆さんや大学生、青年団協議会からの6名による原爆詩の朗読が行われました。続いて「でえげっさあ」のミニコンサートで平和への想いを新たにしました。

平和のパネル展

8月2日(金)～16日(金)、石川県庁19階展望ロビーで開催しました。



紙芝居の上演

展示物は「原爆と人間」パネル、広島基町高校生の描いた「原爆の絵」、西本多美子さんの被爆体験と平和活動を紙芝居にした『たみちゃん』のノーモアヒロシマ』から16場面が展示されました。

オープニングセレモニーでは、岡ひでみさんからアーサー・ビナードさんの「ちいっちゃいこえ」の紙芝居が上演されました。

スペシャルイベント

今年初めてパネル展開催中の8月6日(火)にスペシャルイベントを開催しました。『たみちゃんのノーモアヒロシマ』の紙芝居(短縮版)の上演と照田律子さんの紙芝居の絵づくりに関するトークを実施しました。

第46回 東海北陸生協行政合同会議

●日時 2024年10月11日(金)
●会場 静岡勤労者総合会館、中島屋グランドホテル

今年度の東海北陸生協行政合同会議は、「地域とのネットワークを生かした生活支援」をテーマとし、静岡県で参集型で開催しました。

今回は1月1日の能登半島地震の対応報告を特別講演として、私からは石川県生協連として「コープ被災地支援センター活動報告」を、大谷



報告する大谷会長理事



報告する吉本専務理事

会長理事からは、コープいしかわ理事長として「令和6年能登半島地震の発災を受けコープいしかわが取り組んだこと」をそれぞれ報告しました。

参加された皆さんには、地震対応に際してのたくさんのご支援、お見舞いを頂戴したことへの御礼の場とするのもでき、大変ありがたい報告の場となりました。被災地の復旧・復興に向けては全国の生協や行政の皆さんのお力添えをいただきながら、息の長い支援活動をこれからも継続していくことを改めて報告することができました。

各県行政報告では、消費生活相談件数は前年より減少が3県、増加が3県でした。石川県は微増で特徴的な消費者トラブルとして、大規模災害に便乗した「屋根工事」に関する相談が急増したとの報告がありました。開催県報告は、「フードバンクふじのくに10年の歩み」と題して日誌一幸理事長（静岡大学学長）からの報告がありました。他県のフードバンクの取り組みをお聴きするのは初めてでありましたが、行政としっかり連携されて活動されているという印象を受けました。

(生協連専務理事 吉本 輝芳)



「いしかわ環境フェア2024」に出展

●2024年8月24日(土)・25日(日)
●石川県産業展示館4号館

環境フェアに参加して

今年初めて「いしかわ環境フェア」に参加しました。ブースに足をよこされる方や、会場の雰囲気を感じながらドキドキと会場へ向かいました。



生協連・コープいしかわのブース

生協連・コープいしかわのブースでは「エシカル消費」を知ってもらおうと、パネルの展示とアンケートをおこなっていました。また、こども向けのクイズはパネルを家族でもみてもらうことができ

とても良い企画だったと思います。参加いただいた方にお渡ししたミックスキャロットも知ってる方が多く、コープいしかわの店舗を利用されている方が多く来場されていることを感じました。とても暑い日が続く中でしたが、ファミリーで来られている方も多く楽しく参加させていただきました。
(石川県学校生協 東 正美)

エシカル消費のアンケート結果

アンケートの回収枚数は2日間で330枚、クイズは176枚でした。アンケート結果から、「エシカル消費」を知らないとの回答は74%。買い物の際に配慮していることは？の問いでは、「必要な商品が必要なものだけ買う」、「地産地消を心がける」、「使い捨ての商品より長く使える商品を買う」という回答が多く、エシカル消費という言葉は知らなくても、エシカル消費を心がけている人が多いことが分かりました。

コープ北陸事業連合
被災地支援の取り組みについて

コープ北陸では本年3月より能登町にて炊き出しボランティアを行っています。1回目は能登町白丸公民館、2回目以降は能登町黒川地区にあるセミナーハウスやまびこ前にて実施しています。



射的コーナーの様子

人口減少、高齢化を背景に、持続可能な地域社会づくりが大きな課題となっている中、追い打ちをかけるように能登半島地震が発生してしまいました。
地域創生のためには「関係人口の拡大」が必要だと言われています。



日本生協連の新入協職員さんも参加

ボランティア活動を通じて、関係人口を増やしていくため、この間当事業連合のボランティア活動を人的に支えていただいている日本生協連のボランティアグループ「笑顔とどけ隊」の皆様の参加をこれからも呼びかけていきます。

黒川地区の住民の方が一日でも早く安心した生活を送れるように、一人でも多く能登のファンが増えるように、そして来年9月の秋祭りに「神輿を担いでくれ」と言われるような関係性を夢見て、これからもボランティア活動を続けていきます。
(コープ北陸事業連合 森田 満)



石川県勤労者共済生活協同組合
第69回通常総代会を開催しました



総代会の様子

2024年度は、引き続き組合員の拡大、出資増強をはかります。また、総合（慶弔）共済のほか、連合会の各種共済事業に関する普及宣伝をおこないます。

なお、理事補欠選挙結果が報告され、2名の役員が新任されました。新任された役員は以下のとおりです。

理事 岩田 昭彦

(石川近鉄タクシー労働組合)

監事 笠間 正弘

(東レ労働組合石川支部)

(石川県勤労者共済生協 赤松 智代)

2024年7月30日(火)に、石川県立音楽堂 邦楽ホール(金沢市昭和町20番1号)において、「石川県勤労者共済生活協同組合 第69回通常総代会」を開催しました。最初に令和6年能登半島地震の被災者への黙とうを1分間捧げました。

2023年度事業報告および2024年度事業計画などのすべての議案が承認・決定され終了しました。



総代会の様子

金沢大学生生活協同組合 被災地支援活動

『能登を応援』生協で！食べて！ご縁(5円)募金を実施

金沢大学生協では、2024年1月の能登半島地震及び9月の豪雨の被災者支援のため、店頭募金箱の設置に加えて、組合員の生協利用が災害支援募金につながる企画を実施しました。

～能登を応援～
生協で！食べて！ご縁(5円)募金

期間中、対象商品のご利用1点につき5円が、令和6年能登半島地震および豪雨支援募金になります。

【期間】 2024年10月7日(月)～10月18日(金)
【対象商品】 食堂：ライス(全サイズ)
購買：大学生協おにぎり(全種類)

皆さまからの温かいご支援を
よろしくお願いいたします。

金沢大学生生活協同組合

10月7日(月)から18日(金)の期間中、食堂や購買の対象商品利用1点につき5円が生協の負担で支援募金になる企画です。

対象商品は、日常的に組合員に利用されている食堂のライス(全サイズ)と、購買の「大学生協おにぎり」全種(一部「ひやくまん穀おにぎり」含む)としました。また、企画名称は学生理事からの意見を元に『能登を応援』生協で！食べて！ご縁(5円)募金』と決定しました。

ホームページや公式Xの情報発信や、店頭案内掲示で組合員に利用を呼びかけました。その結果、合計16,319点の利用があり、募金額は81,595円となりました。募金は日本生活協同組合連合会を通じて、被害の大きかった県・市町村への義援金として、また被災地で生活支援等の活動を行う民間団体等への支援金として活用されます。

今後も、店頭募金の呼びかけを中心に、災害支援活動を継続していきます。

(金沢大学生協 井上 美紗子)



石川県より(特非)消費者支援ネットワークいしかわが受託している消費者教育担い手育成研修が、龍谷大学法学部教授で(特非)消費者支援機関関西理事のカライスコス・アントニオス氏を講師に迎えて9月18日、石川県庁会議室で開催されました。

研修に参加して



講師のカライスコス氏

「知らないうちに騙される？
ダークパターン等から
身を守る方法」

ダークパターンとは、ウェブサイトやアプリの表記・デザインで消費者を焦らせて購入させるなど、気づかないうちに不利な決定へ誘導することです。

例えば「ホテルを予約しようと思ったら、『現在13名が見ています』と出てきて、人気なのだと思いついてしまった」などがそれにあたります。法規制はあっても後れをとっているため、カライスコス教授はダークパターン等から身を守る方法として、①ダークパター

ンについて知ること ②消費行動をする前に、必ず一息置くこと ③積極的に、悪い体験だけでなく、良い体験も発信・共有することが重要と話されました。



会場の様子

次に、「トラブルの多い消費者被害に関する基礎知識の再確認」として、通信販売での定期購入や、広告表示・ステルスマーケティング行為について、また若年者・高齢者関連のトラブルが多く発生していることについて説明され、改めて注意することを学習しました。

(生協連 加藤 喜美子)

県生協連活動日誌

- 8 ● 8月 2日(～16日) 平和のパネル展▶石川県庁19階展望ロビー
オープニングセレモニー(10:30～11:30)
- 8月 6日 第1回三役会▶Web会議
- 8月 7日 令和6年度金沢市第1回食の安全・安心委員会
▶金沢市駅西保健所
- 8月23日 第2回非常用通信機器訓練
- 8月23日 労福協第4回理事会▶近江町交流プラザ研修室1
- 8月24日・25日 いしかわ環境フェア2024
▶石川県産業展示館4号館
- 8月30日 反核・平和おりづる市民のつどい第4回実行委員会
▶Web会議
- 9 ● 9月 4日 第3回理事会▶Web会議
- 9月 6日 消費者支援ネットワークいしかわ第4回理事会
▶金沢市長土堀青少年交流センター
- 9月 9日 第3回協同組合間協同連携会議▶石川県農業会館
- 9月 9日 第2回広報委員会▶Web会議
- 9月10日 労福協第5回理事会▶フレンドパーク石川
- 9月11日 第1回役員研修会▶石川県地場産業振興センター
- 9月16日 岡山県生協連被災地視察事前打ち合せ
- 9月17日 第3回企画運営委員会▶Web会議
- 9月19日 日本生協連インターネット総会説明会▶Web会議
- 9月20日 県連活動交流会▶神奈川県:ナビオス横浜
- 9月24日 第4回協同組合間協同連携会議▶石川県農業会館
- 9月26日 関西地連第2回運営委員会▶Web会議
- 10 ● 10月 1日 第2回三役会▶Web会議
- 10月 2日 第27回いしかわの都市計画検討専門委員会
▶石川県庁会議室
- 10月11日 第46回東海北陸生協行政合同会議▶静岡県
- 10月18日 第3回石川県消費者大会実行委員会▶Web会議
- 10月18日 CSNI グッドチョイスセミナー
▶石川県消費生活支援センター
- 10月23日 第2回監事会▶古府センター会議室
- 10月28日 令和6年度食の安全・安心確保に関する講演会・
意見交換会▶石川県地場産業振興センター
- 10月29日 CSNI グッドチョイスセミナー
▶石川県消費生活支援センター
- 10月30日 消費者支援ネットワークいしかわ第5回理事会
▶金沢市長土堀青少年交流センター
- 11 ● 11月 5日 第4回理事会▶Web会議
- 11月 8日 第54回石川県消費者大会
▶石川県地場産業振興センター
- 11月11日 第6回労福協理事会▶フレンドパーク石川
- 11月12日 関西地連第3回非常用通信機器訓練
- 11月14日 第5回協同組合間連携連帯会議▶石川県農業会館
- 11月15日 第4回企画運営委員会▶Web会議
- 11月22日 2024年協同組合学習交流会▶石川県農業会館
- 11月27日 2024年度フードバンクフォーラム
▶石川県地場産業振興センター
- 11月28日 第3回関西地連運営委員会▶Web会議

私のおススメの一冊

時間最短化、
成果最大化

木下 勝寿(著)



最近書店に行く事が少なくなり、なかなかじっくり本を読む機会がなくなっていました。表紙のイラストがコミカルに描かれており、思わず手に取って読み始めてしまいました。

内容については、仕事のスキルに対して、仕事にとりかかる時の思考(考え方)を転換することによって、短時間で成果を最大化できるという、45の法則が紹介されています。

精神的なことや小難しい事の記載はなく、今からすぐに取り組みそうな「なるほど!」とも思える内容や「こんな考え方もあるんだ」というようなことが書かれており、日常の凝り固まった頭を柔らかくしてくれるような内容がいくつも記載されておりました。

「1日1話で45日」とあまり気負わずに読めるところも魅力です。

すべてを取り組むのはなかなか難しいと思いますが、一つ二つは実践できそうな事が書かれています。「近頃仕事が溜まっている」とか「どれから手をつけたら良いか分からない」といった方におすすめの1冊です。

石川県勤労者共済生協 見木 友治

編集後記

2024年のノーベル平和賞が日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)に授与されることになりました。68年の長きにわたり、核兵器廃絶を世界に発信し続けた地道な活動が評価されたものです。

県内では、被爆者西本多美子さんが実行委員長、生協連が事務局を務める反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会で、毎年7月には「平和の子ら」像前でピースデイを、8月には石川県庁の19階展望ロビーで平和のパネル展を開催し、核兵器廃絶の取り組みを進めています。

今回の受賞を契機に、二度と被爆者をつくらないため、更に取り組みを広げていくことが期待されています。

(生協連 加藤 喜美子)

◆お詫びと訂正

生協連だより第111号4P掲載の大学生協事業連合 第6回通常総会の記事において、誤りがありました。寄稿者の氏名 (正)松本 明男氏 (誤)松本 昭男氏 お詫びし、訂正いたします。